



インカレ決起会

10月14日(月)に全日本インカレ決起会が行われました。乾杯から始まり談笑の後、レギュラー代表から全日本インカレに向けての決意が述べられました。それぞれの全日本インカレ優勝への思いは十人十色で、お互いの熱い思いを再認識する良い機会となりました。談笑では、個人個人でお話することができ、各個人がどのような思いでインカレに望んでいるのか共有することができました。また、終盤には2年生全員で作りに上げた2019年度モチベーションアップ動画が公開されました。モチベーションアップ動画には、この1年間の九大ヨット部の活動が些細なところまで濃縮されており、昨年の交代からの1年間を振り返ることができとても素晴らしいモチベーションアップ動画でした。ホームページにリンクを貼っておりますのでぜひご覧ください。今回の決起会では、部の団結力をさらに高めることができました。九大ヨット部で全日本インカレを優勝で飾る準備は十分にできています。後は、九大魂を全国の地で見せつけるのみです。今まで支えてくださった全ての方に感謝して、全力で戦って参ります。ご声援のほどよろしくお願い致します。(高橋)



←モチベーションアップ
動画初披露タイム

いざ、インカレへ

10月31日(木)~11月4日(月)にかけて新西宮ヨットハーバーにて第84回全日本ヨット選手権大会団体戦が行われます。この1年間、永野主将率いる九大ヨット部は今大会の総合優勝のため、日々練習に打ち込んでまいりました。いよいよ九大が表彰台に登る日が近づいています。インカレに向けてのレギュラー選手の意気込み、そして九大の強みである日本一のサポート体制を紹介します!

まずは470クラスリーダーから↓

470クラスリーダー 永野俊輔

いよいよ1年間目標としてきた全日本インカレ団体戦が始まります。

ここまで来れば今までやってきたことを信じ、実力を出し切ることが大切で、それができれば自ずと結果はついてくると信じています。しかし何が起こるか分からないのがインカレです。どんなことが起こっても動揺することなく実力を発揮出来るよう、最後まで万全の準備を行っていきます。全力で頑張りますので応援の程よろしくお願い致します!!



スナイプクラスリーダー 西島孝

今年のチームは、ほとんどが大学から始めた選手で、目標は、メダル獲得です。

チームの雰囲気がよく、レギュラー争いも熾烈を極め、ここまで切磋琢磨してきました。

あとは、スナイプチームを信じて、前を走るのみです。最後まで僕たちを信じてついてきてください



支援艇リーダー 岩原桃子

支援艇メンバーは大会期間中、海上のレギュラー選手の最も近くにいることができます。不安と緊張の中戦っている選手にとって、最後の支えとなるのが支援艇の重要な役割です。大勢のサポートメンバーを代表して海上にいるという自覚を持ち、日本一になるチームにふさわしいサポートをしていきます。そのために、選手がレースに集中できるよう万全の準備と最大限の工夫で臨みたいです。



サポートリーダー 榎原豪

艇サポートは、艇の艤装や整備などレギュラー選手や艇にかかわる準備の手伝いをする係です。自分たちがしっかり艇の艤装のチェックや整備をすることでトラブルを事前に防ぎ、選手が万全の状態レースに迎えるようにすることが仕事です。また、陸上で選手が一番近くにいる係でもあるので、選手が普段通りに力を出せるように、声出しをしっかりと小戸のような雰囲気を作っていくこと、緊張している選手に声かえをしてリラックスさせることなどメンタル面でのサポートも役割だと考えています。このほかにも自分たちができることがないか常に考えて、選手がより良いパフォーマンスを出せるような「気配り」をしていくことも大事です。最終日を笑顔で終えるためにサポートを全力で頑張りたいと思います。



スケジュール班リーダー 川野由美子

スケジュール班は遠征計画部で構成されています。いわゆる遠征のスペシャリストです。この一年様々な大会の指揮を4人で取ってきました。全日は私たち遠征計画部の1年間の集大成でもあります。出場選手と同じくらい、いやもしかしたらそれ以上に緊張しているかもしれないです。何度も何度もどの班よりもミーティングを重ねている自信があります。事前準備は1年前から、この2ヶ月は毎日遠征に向き合ってきました。準備は勿論ですが当日のスケジュールリングは重要な役割です。先ほども書いたように遠征のスペシャリストらしく皆が気を抜いている所も気づかないような所も、皆が達成感に浸る所も4人だけは気を引き締めて、最後の小戸での積み下ろしまで「臨機応変」「多分じゃなくて絶対」を合言葉に、最高の舞台を作れるよう頑張ります！



得点班リーダー 池田麻友

得点班では、支援艇からリアルタイムで情報を受け取り、陸上で計算を行います。

支援艇との電話係、手計算係、ライン係、パソコン係などのすべての係があってこそその得点班のため、まさにチームプレイだと思います。

インカレでは艇数が多い上に、素早く正確な計算が求められますが、事前の準備をしっかりとし焦らずに落ち着いて計算を行いたいです。

どこの大学よりもいち早く情報を伝えることができるように頑張りたいと思います。



申告班リーダー 末永和花

申告班は唯一、海に出るメンバー以外で直接点数に関わる仕事を担います。受付や運営側に提出する書類の管理、レース中の申請物など、これらの様々な手続きにミスがあるとチーム全体に得点が加算されてしまいます。そのため、少しのミスも許されず班員同士のチェックや連携が重要となります。今年から申告班になった班員もいますが、本番を意識したシミュレーションを重ね、準備は万全です。何より2マネの里砂を筆頭に、安心して仕事を任せられるメンバーが揃っています。私個人、全日本インカレでの申告リーダーは2度目ですが、昨年以上に徹底されたサポートを申告班全員で目指します。

備品班リーダー 山之内美彩

備品班は数センチ程度の小さなものからマークなどの大きなものまで、数え出したらキリがありませんが、何百という備品を扱います。備品班にとって、忘れ物無く全ての備品を積み込むことが一番の大きな仕事で、内容としては地味かもしれませんが、しかし、小戸の雰囲気再現し、必要な備品がいつでも近くにあるという状況を作り出すのに重要な役割だと思っています。メンバーは1、2年生のみですが、みんなで積み込み前から始まる備品班としての役割に全力を尽くします！



広報班リーダー 濱田彩花

インカレでは正確かつ迅速な情報提供を最優先にすることを心がけております。インカレでは九大支援艇や得点班と連携をとり、よりつぶさに着順速報を流すことが可能となります。班員一人ひとりが仕事に全霊を注ぎ、九大が日本一を掴み取るまでの過程を全国各地の皆さんに随時お伝えしたいと思います。それに加え、艦装や体操の写真をたくさん撮ることで選手の緊張を解き、普段の小戸と変わらない雰囲気作りにも貢献します。

